

新院長就任

富永隆治新院長 就任インタビュー



●富永 隆治（とみなが・りゅうじ）／昭和50年、九州大学医学部卒業／昭和50年、九州大学医学部付属病院・心臓外科入局／昭和57年、国立療養所福岡東病院・医師（外科）／昭和58年、松山赤十字病院・医師（心臓血管外科）／昭和62年、アメリカ クリーブランドクリニック研究所・留学／平成5年、福岡中央病院・心臓血管外科医長／平成6年、九州大学医学部心臓血管研究施設外科部門・助教授／平成13年、北九州市立医療センター・心臓血管外科部長／平成16年、九州医療センター・心臓血管外科医長・循環器センター長／平成17年、九州大学大学院医学研究院教授（循環器外科学）／平成20年、九州大学病院・副院長／平成27年4月から現職

ご出身は どちらですか？

福岡県糸島郡周船寺村で生まれ育ちました。現在は福岡市に編入され福岡市西区周船寺に なっています。地元の小中学校、修猷館高校を経て九州大学に入りました。

なぜ医師を 志したのですか？

最初は工学部にでも行こうかと考えていましたが、理数系が得意な友人がいて、彼に比べると私の数学の能力はひどいもので、とても太刀打ちできないと思い、だれにでもできそうな医学の道を選びました。実は、中学2年生のとき一番上の姉が日本脳炎に罹り、19歳の若さで、あつという間に亡くなったのですが、そのことが潜在的に心にある医学を目指したのかもしれません。

スポーツは何か されていますか？

中学生から剣道をやっていました。特に高校時代は文字通り朝から晩まで練習していました。3年生でレギュラーになったのですが、早朝からの練習のため授業中は爆睡してよく立たされていました。練習量の割にはもうひとつ試合には勝てず、最後の玉龍旗大会でも、3回戦で、その年3位に入った八女高に競り負けてしまい僕の青春は終わりました。大学に入ったら別のことをと考えていたのですが、やっぱり剣道部に入っていましたね。好きだったんでしょね。全学と医学部の両方の試合に出ていましたから結構忙しかったですね。最後は5年生の時の全日本学生優勝大会、日本武道館で早稲田大学と戦いました。さすがに強かったですね。大将をしていましたが、その頃のメンバーで馬鹿ばかりやっていたのがいま

●昭和45年、岡山での西日本医科学生総合体育大会。
右隣は向野先輩（後に福大教授）。この年、個人戦で準優勝した。



では大企業の重役や、警察署長になったりして、人生は面白いですね。
もうひとつの思い出は仏教です。家が貧乏だったので、下宿代が安いところを探し、九大病院からすぐ近くの崇福寺に入りました。黒田家の菩提寺で、昨年の官兵衛ブームで一躍有名になりましたが、当時は横にある旭地蔵の方が賑やかでした。雲水たちと一緒に部屋で生

活し、朝は3時半に起床してお寺の掃除（私は老師の部屋につ

ながる渡り廊下と途中の便所が受け持ちでしたが）をして勤行、朝食をとって大学まで歩いて通っていました。ここでの生活は大変清々しく気に入っていたのですが、9時消灯で、生来怠け者の自分にとって勉強との両立には少し無理がありましたね。1年位して剣道部の先輩からの勧めもあり、名島の九州大学仏教青年会（佛青）の寮に移りました。この寮費は朝夕食付で月8000円と格安で、部屋も個室でしたのでお寺に比べると天国のようでした。動機は不純でも仏教との関わりを持ったことは今でも良かったと思っています。

なぜ心臓血管外科を 選ばれたのですか？

私は所謂マイナーな診療科の専門家になりたいと思っています。

福岡和白病院院長として 今後の目標は？

たので、心臓外科、耳鼻科、泌尿器科などを考えていました。最終的に心臓外科になった理由は忘れてしまいましたが、できたばかりの教室で何もなかったが逆に魅力的だったのかもしれない。初めの頃は手術成績も悪く患者さんが亡くなるたびに落ち込んでいましたが、今では殆どの人が助かるようになりまし。心臓外科を選んだ後悔したことは一度もなかったですね。

アメリカの三大クリニックの一つであるクリーブランドクリニックのような病院にすることですね。4人のfounderのもと1921年に創立され、心臓血管病を中心に世界的な病院になりました。私も30年前そこ働いていましたが、職員は皆、最先端の医療を行ってい

●九州帝国大学佛教青年会設立一周年記念会（1908年）。前列中央に初代会長の旭憲吉九大皮膚科教授の姿が見える。2列目は九大病院の婦長さん達である。



るのだという誇りを持って生き活きとしていました。「夢のまた夢」という人がいるかもしれませんが不可能なことではないと考えています。

GREETINGS of NEW DOCTOR

新入職医師あいさつ

清水 一晃

1年目研修医

卒大／宮崎大学

平成27年に宮崎大学を卒業しました。清水一晃と申します。患者様に信頼され親しみやすい医師になれるように日々精進してまいりたいと思います。宜しくお願い致します。



肥後 尚樹

脳神経外科

卒大／鹿児島大学

患者様から信頼を頂ける医師として、日々精進して参ります。お気軽にお声かけください。



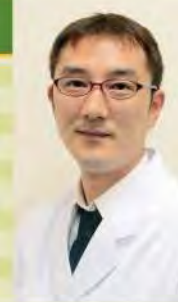
柴田 義宏

内科

卒大／岐阜大学

資格／日本内科学会認定内科医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・日本臨床腫瘍学会がん薬物療法指導医

消化器癌をメインに多くの癌腫に対する化学療法を行っていきます。



中野 龍治

病理診断科

卒大／久留米大学

役職／病理診断科主任部長

資格／医学博士、死体解剖認定医、病理認定医、細胞診指導医、臨床検査専門医

各診療科と連携し、医療の質の向上に貢献致します。



筒井 聡

1年目研修医

卒大／久留米大学

今年度から福岡和白病院で働かせていただくことになりました。研修医1年目でまだ未熟者ですが、日々勉強、努力し、一日でも早く患者さまのお役に立てよう精進しようと思っておりますのでよろしくお願い致します。



三島 彩加

眼科

卒大／福岡大学

患者様から信頼され気軽に声をかけて頂けるよう頑張っておりますので宜しくお願い致します。



樋口 誉則

内科

卒大／熊本大学

資格／日本内科学会認定内科医、日本循環器学会循環器専門医

皆様の健康をサポートできるよう努力していきなしたいと思いますので、宜しくお願い致します。



吉田 毅

泌尿器科

卒大／産業医科大学

役職／泌尿器科医長

資格／日本医師会認定産業医、日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医

泌尿器科全般の診療を行っております。特に、結石・腫瘍に関する経尿道的手術、腹腔鏡手術に力を入れて取り組んで参ります。大学で行っている化学療法、放射線療法も引き続き、当院にて継続して行っていく所存です。



中村 友哉

1年目研修医

卒大／熊本大学

熊本大学出身の中村友哉と申します。早く一人前の医師となれるよう日々努力を重ね、患者さんの訴えと真摯に向き合っていくことを心がけます。宜しくお願い致します。



村田 知美

2年目研修医

卒大／佐賀大学

総合診療科で研修させていただいております。患者様により良い医療を提供できるように頑張ります。



花村 文康

内科

卒大／九州大学

抗がん剤治療を主体とした腫瘍内科を専門としています。がん医療全体の発展に貢献するとともに、患者さま一人一人に寄り添える医療を目指しています。常に笑顔を忘れぬ診療を心がけていきます。



中野 敬太

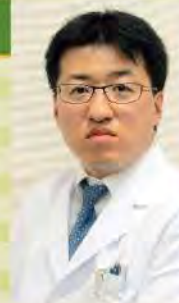
放射線科

卒大／産業医科大学

役職／放射線治療医長

資格／放射線治療専門医(日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会共同認定)、肺がんCT検診認定医

悪性腫瘍に対しての放射線治療を専門に診療を行っています。宜しくお願い致します。



副島 利弥

1年目研修医

卒大／久留米大学

福岡和白病院で初期研修をさせていただく副島利弥です。北九州で生まれ2015年久留米大学医学部を卒業しました。患者様に対して微力ながら力になれるよう日々の診療に勤めていきたいと思います。よろしくお願いします。



加藤 淳一郎

1年目研修医

卒大／大分大学

大分大学を卒業し、今年度から福岡和白病院に勤務となりました。まだ一年目で慣れないことが多く、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、早く患者様方から信頼される医師となるよう、日々精進していきなしたいと思います。宜しくお願いします。



来間 裕一

整形外科

卒大／琉球大学

当院で初期研修後、三年間救命に携わってきました。宜しくお願いします。



古賀 清和

心臓血管外科

卒大／佐賀大学

資格／日本外科学会専門医、3学会構成心臓血管外科専門医、下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施医、医学博士

心臓血管外科の手術は比較的大きな手術が多いですが、納得し、安心して治療を受けて頂けるよう努力致します。一緒に治療を頑張りましょう。



山口 雄大

1年目研修医

卒大／鹿児島大学

鹿児島大学卒業の山口雄大と申します。出身地でもあり生まれ育った福岡に帰ってきて地域医療に貢献できるようがんばります。毎日、学ぶことで患者様の痛みや苦しみがかかるよう精進致します。



黒木 文裕

1年目研修医

卒大／福岡大学

初期臨床研修医の黒木です。まだまだ分からないことだらけで慣れないことも多いですが、一生懸命頑張ります。



力丸 悠

整形外科

卒大／長崎大学

患者様の目線に立った医療を心掛けて参ります。何かあればお気軽に御相談ください。



元春 洋輔

心臓血管外科

卒大／長崎大学

患者様とご家族が安心し、満足して過ごし笑顔で退院できるよう精一杯の力を尽くしていきます。



福岡市救急ワークステーション研修



当院は昨年度より福岡市救急ワークステーション研修を受け入れております。ERが研修部署であり、救急待機中は、ER研修、医師による座学をおこなっており、当院を中心として約4km圏内でのCPA事案発生時には医師が同乗して、救命

活動をおこないます。西戸崎、和白、多々良、箱崎が対象で、全64回の平日日勤帯で、各隊2班6名が交代で研修を受けられています。これからの救急隊と連携をより高めるため、病院全体で取り組んでいます。



福岡県国民保護共同実動訓練

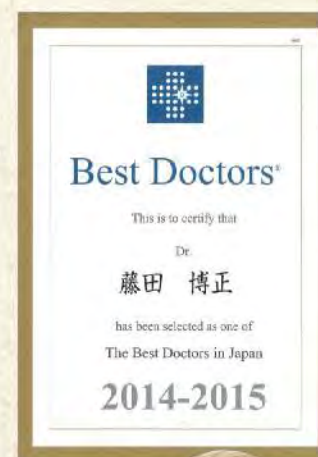
有毒ガスサリンによるテロを想定した訓練に参加してきました。

平成27年1月20日、国民保護共同実動訓練が実施されました。訓練は、福岡市西区の地下鉄橋本駅にてサリンが散布され、多数死傷者が発生したという想定。訓練参加者は、下記機関から千名を超え、当院から医師・看護師・業務調整員の5名が参加。現場での役割は、病状によって治療の優先順位を決めるトリアージエリアを担当。国と県が共同で行う訓練としては初めてで、最初は戸惑うところもありましたが、全体としてスムーズにトリアージ、治療、医療機関への搬送が行えました。今後も、DMAT隊員として、また災害拠点病院、福岡県DMAT指定医療機関として常に準備・訓練に取り組みたいと思います。

参加機関
行政／内閣官房、福岡県、福岡市、警察庁、消防庁、厚生労働省、国土交通省、防衛省
警察／福岡県警察
消防／福岡市をはじめとした各消防局・消防本部
自衛隊／陸上自衛隊、自衛隊福岡病院、自衛隊福岡地方協力本部
医療機関／福岡和白病院、九州医療センター、済生会福岡総合病院、福岡大学病院、九州大学病院、福岡赤十字病院 等

※内閣官房国民保護ポータルサイトにて、訓練の記録映像(約30分)を確認することができます。→URL: <http://www.kokuminhogo.go.jp/>

藤田総院長が Best Doctors® に選出!



ベストドクターズ社とは、米国マサチューセッツ州ボストンに本社を置き、現在70カ国で適切な治療やセカンドオピニオン取得のための名医紹介などのサービスを行っている会社です。ベストドクターズ社の名医選出方法は、医師に対して「もし、自分や大切な人が、自分の専門分野の病気にかった場合、自分以外の誰に治療を委ねるか」という観点から、他の医師についての評価を伺うことで進められ、最終的に調査結果から一定以上の評価を得た医師を名医(Best Doctors)に認定するというものです。現在、世界中で約53,000名の医師が名医として認定されており、日本では約6,100名が認定されています。(医師数は2014年7月現在)



*季刊ベストドクターズ・イン・ジャパン Issue29 2015に掲載されました。

Best Doctors, ベストドクターズ, Best Doctors in Japan および star-in-cross ロゴは米国および他国におけるベストドクターズ社の商標です。



第33回九州食道疾患症例検討会の開催

この研究会は、「食道疾患の診療について何でも語り合おう」という主旨で、九州中の食道疾患の診療に興味がある医師に呼びかけ、平成11年から年2回開催しています。困った合併症、迷った症例など普通の学会では報告できない問題症例をぜひくばらんに話し合う研究会です。平成23年には、報告例を集めて「食道疾患症例集 こんな時どうする」というタイトルで本が出版されました。数年後には第2版を出版すべく、CDに記録しています。

第1回を久留米大学で藤田が開催し、16年目の第33回を福岡和白病院で開催することになりました(幹事/藤田Dr)。平成27年2月7日(土)午後1時から6時まで、北九州から鹿児島までの12施設から20名が参加し、10題の発表がありました。前半を田原Dr、後半を藤田Drが司会しました。病理の笹栗Drが同時進行で病理標本を鏡し、所見を報告してくれました。研究会の後は、博多駅の近くで懇親会を催し、参加者全員が自己紹介と施設紹介を行い親交を深めました。

藤田博正 記

患者さまが安心して生活できる医療環境となるよう全力でサポート致します。

医療連携室だより

わが町のホームドクター紹介

医療法人原外科医院

診療科 外科・消化器外科・胃腸科内科・肛門外科・(乳腺外科)

- 住 所：糟屋郡新宮町下府1-3-5
- 電 話：092-962-0704
- 入 院：あり・8床
- 駐車場：10台
- 院 長：原 速

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~13:00	○	○	○	○	○	○
14:30~18:00	○	○	○	○	○	△

※日曜・祝祭日は休診 ※土曜日は13:00まで

院長より一言

新宮町で開業して50年になります。(2代目です)地域の医療・介護の連携拠点を目指して頑張ってきました。粕屋医師会では専務理事の仕事をしております。最近では粕屋在宅医療ネットワークが福岡県医師会の支援のもとに「とびうめネット」へと成長し、嬉しい悲鳴をあげております。和白病院の皆様にも昨年より、とびうめネットに参加していただき、新宮町としても粕屋全域からも誠に心強く、感謝の声が挙がっております。とびうめネットは今後、福岡県全域に拡大される予定です。その中でも救急に特化した和白病院の皆様のご協力に大いに期待している次第です。ともに地域医療を支えてくれるパートナーとして、日々我々周辺の開業医に多大な支援をしていただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。今後も更に連携の絆を強めて、揺るぎない地域医療システムを作り上げていければ幸いです。よろしく願いいたします。



第7回 地域医療支援病院 運営委員会 開催



医療連携室
桑名俊幸

平成27年4月8日に第7回地域医療支援病院運営委員会を開催いたしました。昨年の12月5日に「地域医療支援病院」の承認を受け、今年度初めての運営委員会ということもあり、平成26年度の各件数の実績や地域貢献活動を含めた取り組みについての報告を行いました。福岡市医師会長の江頭啓介会長を始め、福岡市東区保健福祉センターの石井美栄所長や福岡市消防局東消防署の益永亮署長より当院での取り組みについてのご意見を頂き、今後さらに地域医療の充実が図れるよう努めていきたいと感じました。



医療連携室勉強会

平成27年4月28日(火)原土井病院をお招きして、「社会医療法人原土井病院における地域包括ケア病棟について」の勉強会を院内職員対象に開催しました。「地域包括ケア病棟」とは、急性期治療を終えたが在宅退院に不安があり、もう少しリハビリしたい方、在宅療養中に治療やリハビリの為に、在宅医から入院を提案された方等が対象で、住み慣れた地域で在宅生活を続けられるように医療・リハビリ・介護等の調整を行うための病棟です。その為、退院先は在宅が基本です。リハビリは、1日40分程度を日曜日以外は毎日行います(※リハビリの提供時間は、医師の判断により異なります)。入院期間は最大60日間です。原土井病院は、この他にも医療依存度が高い方の病棟、難病患者の為に病棟、緩和ケア病棟があります。医師、看護師、リハビリ、事務など、多職種が参加しました。これからの職員全体で、地域の病院機能をきちんと理解して、医療連携の強化を図っていきます。



福岡和白病院・創生会・福岡工業大学が三者協定を締結

社会医療法人財団池友会 福岡和白病院、社会福祉法人創生会、福岡工業大学の3者が平成27年3月5日(木)に福岡工業大学内FITホールセミナー室において包括的連携協定を締結いたしました。本協定は近接する福岡和白病院、創生会、福岡工業大学が包括連携のもと、相互に協力し、健康長寿を基盤とする地域の発展と人材の育成に寄与することを目的としています。



「地域包括ケアシステム」勉強会を開催



院は「地域包括ケアシステム」を、地域の皆さんと一緒に取り組んでいきます。

2015年1月21日、29日に、東区保健福祉センター地域保健福祉課の方をお招きして、「地域包括ケアシステム」について勉強会を行いました。「地域包括ケアシステム」は、住民が「地域」の実情を把握し、足りないものを補充、整備して、「地域」皆で、障害者や高齢者を支えていくことです。2025年には3人に1人が、65歳以上になります。高齢化が早く進むため、「地域」で効率よく整備していく必要があります。当院は「地域包括ケアシステム」を、地域の皆さんと一緒に取り組んでいきます。

がん相談員



患者様やご家族または地域の方々、がんに関する情報を提供したり、相談にお応えします。がん専門相談員として信頼できる情報に基づいて、がんの治療や療養生活全般の質問や相談をお受けします。

コンシェルジュ (イエローボーイ)



当院ではコンシェルジュが正面玄関前にて、来院された患者様の車椅子介助や、受診に関しての困りの患者様へのご案内等、患者様が来院された際の不安を解消し、様々なご要望に応じたサービスの提供ができるよう日々努めております。

カンボジア研修



当院の研修医とグループ病院の研修医5名に同行させて頂き、平成27年1月20日から1月27日まで8日間、ボランティア研修として、カンボジアのアンコール小児病院にて、外来診療、訪問診療を行いました。短い時間ではありましたが、訪問診療で出会った子供たちのキラキラした目と元気な姿がとても印象に残っています。

総務課副主任／藤井 貴大



院内旅行

●ロサンゼルス

今回の研修では、ロサンゼルスとラスベガスを訪れ、さまざまな所を観光しました。中でもグランドキャニオンの壮大な景色は一番心に残っています。日本とかけ離れた環境での数日間とてもリフレッシュできました。貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

医事課／早田 美帆



●バルセロナ

1月22日から26日の3泊5日の旅でバルセロナに行きました。ガウディの建築物（サグラダファミリア／カサミラ／グエル公園）、ミロやピカソの美術品を主に観て回りました。写真では良く見えますが、実物は繊細な中にも迫力があり、写真では伝わらない空間や色彩に圧倒され感動しました。食事はパエリア・タパス・生ハムなどがあり、スペイン発祥のサングリアも美味しかったです。気候は温暖で湿度も高くなく過ごしやすい街で、再び行きたい街の一つになりました。

リハビリ／福永 梨香



たけのこ掘り

4月18日は、初めての病院行事の「たけのこ掘り」に参加してきました。当日は良い天候に恵まれ、とても楽しく思い出に残る一日となりました。

たけのこ掘りは初めてだったので、地元の皆さんがとても優しく丁寧に教えてくださったので、同期と笑いあひながら、たくさん収穫することもできました。また、たけのこ掘りで他の部署の方々とたくさんお話しすることができたので、このような行事はいろんな方々と親睦を深めるための大事なものであると思いました。

蒲池理事長の生家では、地元の方たちが、だんご汁や山菜料理をたくさんふるまって頂き美味しかったです。また食後の散策では、近くの黒木大藤祭り綺麗で、天然記念の藤の花も見ることができ、心温まるひと時を過ごすことができました。

このような行事の企画をして頂いた蒲池理事長他、山を提供して頂き、おいしい料理を振る舞ってくださった地元の方たちには感謝の気持ちで一杯です。またこのような行事があれば積極的に参加していきたいと思っています。ありがとうございました。

医事課／久富 未紗



新入職員入職式

平成27年4月1日、あいにくの小雨模様ではありましたが、新入職員入職式が執り行われました。伊藤会長の挨拶で始まり、続いて今年度、院長に就任された富永隆治先生の挨拶があり、新入職員を温かく迎えるとともに、「同じ一年目の職員として、共に頑張りましょう」とのお言葉を頂きました。

新入職代表者からは「自分の目指す看護師像に近づけるように日々の看護と向き合い努力を重ねていきたい」と力強い思いを述べ、式に出席したスタッフも初心に帰る思いでした。

その後2日間のオリエンテーションでは、皆真剣なまなざしで先輩職員の話に耳をこたわけていました。昼食時は、蒲池理事長に用意して頂いた、クリエイティブハウス（障がい者就労施設）でつくられたお弁当をとりながら自己紹介を含め、新しい仲間と今後の抱負を語り合いました。最後は雨もあがり、満開の桜の木の下で記念撮影をしました。新入職の皆さんこれから一緒に頑張りましょう。

総務課係長／古賀 智浩



初期臨床研修医 医師国家試験合格祝賀会



平成27年4月25日（土）に初期臨床研修医医師国家試験合格祝賀会を開催しました。

当グループでは計24名の研修医を迎えることとなり、当院ではフレッシュな7名の初期臨床研修医を新たに迎えることになりました。

研修医と指導医それぞれが、熱い決意表明や応援メッセージを披露し、熱気に満ちた会となりました。

総務課長／宮本 将臣



新人歓迎会



平成27年4月17日（金）、福岡和白病院の新人歓迎会を開催しました。新入職者の若い精鋭たちを迎え、総職員数は1,149名の大所帯となりました。

救急からリハビリを経て自宅に帰られた後も質の高い医療を提供すべく、「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」の理念で新人教育に努めて参ります。

今年度も福岡和白病院は地域医療支援病院として、地域の皆様の医療と健康維持に邁進して参ります。

リハビリ主任／畠田 将行